

がんセンターたより

学会参加報告

第73回 西日本泌尿器科学会

泌尿器科 長坂 拓学

2021年11月4日から6日まで宮崎県宮崎観光ホテルで開催されました第73回西日本泌尿器科学会総会に参加・演題発表させていただきました。コロナ禍のため現地開催が危惧されておりましたが、幸いなことに一時的にCOVID-19感染が落ち着いていた時期であり現地で発表することができました。私は「低血糖発作を契機に発見された Doege-Potter syndrome の一例」のタイトルで症例報告をさせていただきました。人生初の現地での学会報告ではありましたが質疑応答や発表終了後の交流などは非常に有意義な時間となりました。その他学会会場では転移性膀胱癌の新規治療戦略や転移性腎癌に対する免疫チェックポイント阻害薬の選択などについて活発な議論が行われており最新の癌診療について勉強することができました。本学会で学んだ様々なことを今後の臨床・研究に還元し、当院から新たな知見を発信していく重要性について再認識いたしました。この場を借りてご指導いただいた先生方や貴重な機会をいただけたことに感謝申し上げます。



第59回 全国自治体病院学会in奈良

放射線診断技術科 佐藤 伶美

2021年11月4日（木）、5日（金）の2日間にわたり、「奈良県コンベンションセンター、なら100年会館」にて開催された第59回全国自治体病院学会の報告を致します。

この学会は、公立・自治体病院で構成されている学会で、診療放射線技師をはじめ看護師などあらゆる職種の方が一堂に会する学会です。

今回の学会テーマは「地域医療を守る～チームで挑む、再生と未来～」でした。コロナ禍ということもあり、現地でのポスターセッションとWEB発表を併用した形式で開催されました。

WEB発表が大半になるものと予想しておりましたが、現地での参加者も非常に多かったです。

私は、「当施設におけるステレオガイド下マンモトーム生検の取り組みと課題」という演題で、現地でのポスターセッション形式に参加致しました。2020年4月の緊急事態宣言以降、「密」を避けるため、人が集まるような学会の開催が難しい日が続いてきたなか、久しぶりに現地で開催される学会ということもあり、会場では全国の自治体病院に勤務する診療放射線技師らが日頃の研究成果を積極的に意見交換する場面もみられました。



総長表彰

12月23日、総長表彰の選考発表会にて、サービス向上や業務改善などの取り組みについて10チームが発表を行い、うち5チームを表彰しました。受賞したチームのコメントを掲載します。



総長賞

地域連携室 動画共有サイトを活用した情報発信の取り組みについて

これまで、がんセンターの情報を発信する際は、医療機関に訪問させていただき直接お伝えし、することを第一としておりましたが、コロナ禍において、それが叶わない状況が続いておりました。そこで、患者さん自身にがん治療について知っていただき、受診のきっかけになればとの思いで、動画の配信を企画しました。今回の受賞を元に、より多くの方に動画をご覧いただけるよう、今後もコンテンツの充実に努めてまいります。

病院長賞

RATS チーム ロボット支援下胸腔鏡手術 (RATS) において出血、血管内損傷に対する緊急ロールアウト・フローチャートの作成

上記について発表し、病院長賞を頂きました。ロボット手術には多くの職種が関わるため、職種間での連携がとても重要となります。がんセンターでの呼吸器外科領域におけるロボット手術は、今後ますます増えていきます。今後も安全に手術が行えるよう、チーム一丸となって頑張っていきます。

事務局長賞

手術室医療機器管理会議 手術室で使用する機器類・材料等の費用削減の工夫について

令和3年4月に発足した手術室医療機器管理会議では、手術室で使用する医療機器・材料に係る課題と問題点を話し合い、より医療的に安全にかつ効果的、コストを削減出来る方法について日々検討をしています。医師・看護師・CE・事務の協力により今回の表彰が成し遂げられました。がんセンターが移転してから今年で9年目となり、初度調弁備品の更新等の議論も含めて、今後も会議での活動・業者との交渉をより効果的に進めて参ります。

看護局長賞

患者支援センター がん相談支援室 コロナ禍におけるがん患者同士の支えあいを支援する取り組み

がん患者サロンあさひおしゃべり会 (ZOOM) 開催までの取り組みについて発表しました。人とのつながりが少なくなるコロナ禍においても、がん患者さんが「ひとりじゃない」と見え、孤立感を癒す場があることを知っていただくよい機会にもなりました。がん患者同士が支えあえる場所として、第3金曜日14時からZOOMにより開催しています。これからもピアサポーターのみなさんと共に継続していきたく思います。

臨床研究所長賞

放射線治療科 放射線治療科における研究ミーティング導入の成果

当科は「放射線治療科における研究ミーティングの成果」について発表し、英語論文の発表数を大きく伸ばせたことを報告しました。結果は惜しくも(?)総長賞を逃しましたが、臨床研究所長賞を頂戴しました。多くの部門が、より良い病院のため絶えず努力していることを実感しました。

診 療 科 紹 介

東洋医学科(漢方サポートセンター)

東洋医学科 部長 板倉 英俊

東洋医学科は、がんの治療の合併症・副作用の軽減、生活の質(QOL)の改善するために、診療を行っています。がんで通院されている皆様は、身体がだるくなったり、すぐ疲れるようになったり、食欲が減ったり、ホットフラッシュや冷えが出たり、心と身体の不調を抱えながら病院にいらしていると思われます。こうした不調が持続するとき、東洋医学的な治療を考慮されると良いと思われます。

東洋医学が得意とするところは、身体を整えることで、本来人間が持っている自分自身で体の治す力を引き出す方法です。このために、漢方薬を処方したり、生活を整える養生法や、日々の食事に気をつけるため薬膳を学んでいただいたり、お灸や鍼も行うこともあります。

特に鍼灸治療は、昨年より星野鍼灸師に来ていただき、痛み止めだけで収まらない痛みに、多くの成果を得ています。(鍼灸治療は、火曜午前と金曜午後に行なっていて、30分で一回3550円になります。)

東洋医学科スタッフ全員で、皆様の生活が少しでも快適であるようサポートいたします。

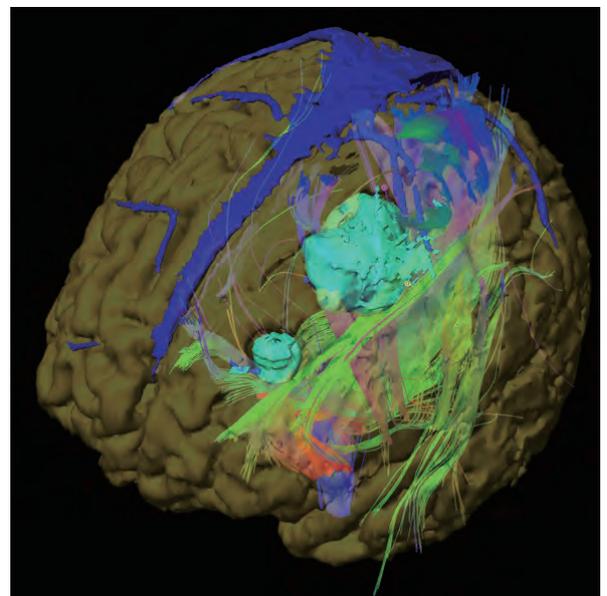


脳神経外科

脳神経外科 部長 佐藤 秀光

脳神経外科は 令和3年度は 石川幸輔先生と二人体制で診療を行っております。木曜日が手術日で、その他の曜日は佐藤と石川で外来診療をおこなっております。

ここでは脳腫瘍の手術のお話をします。一昔前は脳腫瘍は切除するだけでしたが、近年は脳の機能の解析が非常に進んでおり、術後もいかに脳機能を温存するかということが求められるようになってきました。脳腫瘍の手術は、いわゆるセーフティーマージンというものはありません。脳腫瘍の周りはずべて神経線維あるいは神経細胞そのものですので、腫瘍と脳のぎりぎりの境目を切り分けていくこととなります。「がんをさわるな」と教えられている外科医からすると、基本がなっていないとお叱りをうけるかもしれないのが脳外科です。温存すべき神経線維と腫瘍の位置関係を把握してミリ単位で精密に手術する必要があります。ニューロナビゲーションシステムを導入し脳(黄)と腫瘍(水色)、血管(青)、神経線維(緑・赤)を立体的に術前に把握できるようになりました。





あゆみ園のクリスマス会

あゆみ園では、令和3年12月24日（金）に、クリスマス会が開催されました。布を貼ったもみの木のボードに、クリスマスオーナメントの絵を皆で飾りつけ、クリスマスツリーを作りました。その後、プレゼントを抱えたサンタさん（がんセンター事務職員）が2年ぶりに登場すると、子供たちは、さらにワクワクした様子でした。



「がん相談支援センター」をご存じですか？

がん相談支援センターとは、全国の「がん診療連携拠点病院」や「小児がん拠点病院」「地域がん診療病院」に設置されている、がんに関する相談の窓口です。当院では患者支援センターのがん相談支援室がその役割を担っています。

がん相談支援室では院内・外を問わずがんについての様々な相談への電話・面談による対応を行っています。たとえば「こどもに病気のことを伝えるにはどうすればいいだろう」「抗がん剤で脱毛の可能性があると言われたけど、何を準備したらいいですか？」「とにかく不安です」等々です。

相談対応のほか、患者サロン（月に1回オンラインで開催中）の支援や疾患別サポート教室（現在中断中）の運営等を行っています。

相談は予約不要で無料です。もし相談ニーズのある患者さんを見かけたら、「相談室がありませんよ」とご案内ください。

相談専用電話番号：045-520-2211（平日の9時～16時）

編集後記

久しぶりに職員の学会報告が掲載されました。まだまだ、以前の日常生活に戻るには時間を要しますが、本号が皆さんの手元に届く頃には、オミクロン株の蔓延もピークを過ぎていくことと思います。同時に、内服治療薬が簡単に処方できる状況になって、インフルエンザと同レベルの感染対策で十分、という世の中になることを期待しています。本号で通常の日常を感じていただくと共に、引き続き、当センターへのご支援をお願い申し上げます。

病院長 金森 平和